

一般社団法人 日本医療経営実践協会 第2回 「医療経営に関する研究助成」

指定課題研究：②「医療の国際化」

ベトナムにおける在宅医療の整備 -日本式の医療マネジメントシステムの応用-

## 研究要旨

研究者：大宮 謙一<sup>1)</sup>、網代 祐介<sup>2)</sup>

1) 医療法人社団藤崎病院 脳神経外科 脳卒中センター長、医療経営士1級、医療経営指導士

2) 社会医療法人社団光仁会 第一病院 医療福祉連携室室長、法人管理企画部兼務、

医療経営士1級、医療経営指導士

### 【背景】

ITの発展により情報へのアクセスが格段に改善し、様々な面での国際化が急速に進行している一方で、医療に関しては各国独自の背景・慣習や政治的な影響により国際的な水準からの乖離がみられることが少なくない。

目覚ましい経済発展の裏で、平均年齢の若い東南アジア諸国は開発への資金投入が活発な一方で医療・社会保障の整備が後回しになっている点が懸念されている。

ベトナムは歴史的・地政学的に本邦とのつながりが強く、近隣諸国と比較するとある程度医療保険制度や医療機器の面では整備されているものの、未だ先進国の水準には及ばない。

同国において本邦で培った医療経営の知識を生かす場があると考えた。

### 【研究目的】

限りある医療資源の投入先として急性期医療に特に大きなウェイトが置かれており、回復期・療養型医療、在宅医療・家庭医学・予防医学という概念はあまり浸透していない。

在宅医療診療所を開業した医師はその有用性を確信している一方、事業継続のための経営とマネジメントという面で問題を有している。診療システムおよびその手段にはまだ手探りの部分が多く、かつ資本が少ないことから広告・広報、マネジメント改善に配分する余力が少ない。結果として経営面で苦戦しているケースが少なからずみられる。

同国の医療事情を鑑みると在宅医療を軸とした家庭医学・予防医学の整備は有益性があると考えられ、その普及を図ることと運営面での支援を目的とした。

### 【方法】

我が国の水準をもとにした広報、組織マネジメント、ITなど効率的な医療経営のスキームを導入するため、受療環境の整備および集患の支援を軸とし持続可能でより良好な医療体制を確立することを実践すべく、現地協力医療機関とともに医療経営の実践として広報、IT、効率性の向上、教育の観点から介入を行った。

### 【結果・考察】

協働によりマーケティング・広報の強化および新規サービスの提供、効率的な医療機関経営という点で変革を行うことができた。しかしながら受診総数および収益性の面では、研究後半期に世界的な問題となった COVID-19 の影響もあり十分な結果を出すに至らなかった。

**【結語】**

本介入により、特に広報を通じて新たな地域医療連携システムを構築することができ、今後とも長期にわたってその有用性が維持されることが期待される。本介入による改善点を受け、今後も現地医療従事者による更なる医療サービス改善に向けた活動の継続を期待する。